

観光力・消防力さらに前へ

塚本まさる

Tukamoto Masaru
奈良市議会議員

議会活動報告



老朽化した消防車両更新、職員数の充実を 消防・防災力の向上提案

奈良市議会の塚本まさるは「安心・安全のためのまちづくりと、国際観光都市のさらなる発展」をキーワードに、昨夏の市議選初当選以来、議会の場で質問や提言に取り組みでまいりました。特に18年間、消防団員として活動をさせていただいた経歴から奈良市の消防力、防災力の向上について提案を続けてきました。厳しい財政状況の奈良市ですが、市民生活に直結する課題に対して、老朽化した車両の更新や消防職員数の充実などを強く求めました。

市議会12月定例会 一般質問

新潟県糸魚川市で発生した大規模火災は大きな被害をもたらしました。奈良市では幸いこのような大規模火災は発生していませんが、私の地元の尼ヶ辻、佐紀町では建物火災があり、このうち佐紀町では道路が狭いために消火栓からホースを20本もつないで消火にあたり、たつてもらい鎮火まで4時間を要したことがあります。

一般質問では消防車両が進んできかない場所における消防活動を迅速に行うための対策について市消防局の考えをたずねました。

消防局長は「消防署の管轄を問わず道路が狭い地域の情報を担当課がとりまとめ、情報を共有している。消防車両が進んできかない場所については今後、必要機材の配備や訓練を継続していくとともに、火災防衛計画の策定を進めていく」と答弁しました。

またわたしは、消防車両、救急車両の整備状況や耐用年数、更新計画はどうなっているか、他の中核市と比較して説明を求めました。奈良市では救急車16台のうち4

台が、更新計画を過ぎていたり、台が明らかに、財政が厳しい中でも市民生活や命に直結する車両の更新を求めました。

消防局長の答弁では、奈良市の車両耐用年数は中核他市と比較して長い傾向に表参照がある上、奈良市が保有する救急車16台のうち、4台は更新の目安としていたる走行距離18万キロを超え、20万キロに達している状況が明らかになりました。

市議会3月定例会 一般質問

道路が狭く消防車両が進んできかない地域や、木造建築物の密集し

た地域が多く存在する奈良市の現状に対し、先の12月定例会では消防局長から「防衛計画を策定する」との答弁がありました。この計画の具体的な内容について質問しました。

消防局からは、「計画策定において、管轄する消防署長が地勢や水害などを複合的に勘案して延焼の危険性が高く消火活動が困難とされる街区を指定対象地域とし、計画策定後は全署に消防活動資料として周知、計画に基づく訓練、無線統制資料などに活用する」との答弁がありました。

またこのほか、奈良市の消防力の整備率は他市と比較してどのような現状かを



平城宮跡歴史公園オープン

市の観光力向上へ

奈良時代を今に感じる空間として国と県で整備を進めてきた平城宮跡歴史公園が3月24日にオープンし、その記念式典に出席させていただきました。朱雀門から南に延びる朱雀大路が復元されたほか、展示施設「平城宮いざない館」や飲食スペース「天平うまし館」など5つの施設がオープンしました。

春の行楽を迎え、同公園には県内外から多くの来園者が訪れています。また2020年のオープンを目指し、大宮通りの市役所向かいではJWマリオットホテルの工事が進められており、新たに整備されたこの公園と共に、国際観光都市である奈良市の観光力を高めていき、オリンピックイヤーを迎えたいと思います。



中核市の消防車両更新基準

	奈良市	ほかの中核市平均
消防ポンプ自動車	購入から18年	購入から14.5年
水槽付消防ポンプ自動車	// 20年	// 14.3年
救助工作車	// 20年	// 15.6年
救急車	// 8年または走行距離18万キロ	// 8年または走行距離12万キロ

ただし、消防局からは「国の消防施設整備計画実態調査(平成27年度)では整備率は施設、車両ともに100%で、中核市平均の施設92%、車両91.9%を上回っている」との説明がありました。しかし、消防団の非常備車両については配備年度や走行距離などを基準として更新を順次行っているものの、老朽化が著しく厳しい財政下では修理修繕での対応に追われている状況にあり、全市的に消防力の整備率を上げていくよう、強く要望しました。

加えて、現場活動を担っている消防職員数が年々減少傾向にあることについて指摘し、計画的な職員数の確保を求めました。